

認定特定非営利活動法人
日本ハビタット協会



「2012 年度活動報告」
「決算報告」

2012 年度活動報告

はじめに

2012 年度は、国内、国際とも、大型の支援事業に着手したことが特色です。また、当協会のコイン仕分けボランティアへの参加が増え、企業の社会貢献活動も一層積極化したことも特色でした。以下に 2012 年度の活動の概要を報告いたします。

1. 支援事業

(1) 東日本大震災復興支援事業

● 復興の桑事業－緑いっぱいプロジェクト in 仙台－

東日本大震災の津波で、東北地方太平洋側の農地は大きな被害を受けました。瓦礫とヘドロは除かれましたが、畑の塩害は残ったままです。日本ハビタット協会は、東京農業大学の長島教授のご協力で、仙台市若林区荒浜海岸近くの津波の被害が特に大きかった畑に桑の木を植えて地域の復興と再活性化を目指すプロジェクトを実施しました。桑にはミネラルなどが多い上、糖分の吸収を阻止する特有の成分があり、近年では健康食品として注目されています。

2012 年 5 月に挿し木で植えた 76 本の苗のうち 75 本が、10 月初めには 170cm の高さまで育ちました。無農薬で育てられた桑を 10 月 10 日に刈り取り、その日のうちに抹茶のようにマイクロパウダー化しました。健康茶として、またケーキやクッキーに加工して販売されています。(商品名: Champs du murier シャン ドゥ ミュリエ)

この実証に基づいて、2013 年度には桑の木 6,000 本を植えて事業化することを決定しています。今後この事業は農家の方々が中心になって実施されます。桑の葉を加工して販売するという従来の農業を超えた事業です。こうして被災した農業コミュニティが再活性化しようとする事業です。日本ハビタット協会は支援を続けてまいります。



● ハビタットサンタ

子どもたちが笑顔になれる時間をつくり出したいと願い、今年もハビタットサンタがクリスマスプレゼントとして本と図書カードを被災地の子どもたちに届けました。プレゼントを受け取ったのは石巻市立雄勝小学校、石巻市立釜小学校と南三陸町立志津川保育園の子どもたち、合計 624 人です。子どもたちが楽しい冬休みを迎えることができるよう祈りを込めました。



● 子どもの自立支援プロジェクト

東日本大震災で親を失った子どもたちは現在ほとんどが親類か知人宅で暮らしています。これら子どもたちは、進学、就職、そして自立して自分の居場所を手に入れるまで、さまざまな困難に直面す

ることが予想されます。

子どもたちが困難を克服し、自分の将来に夢や希望を持って成長していけるよう、里親、児童相談所、児童養護施設、地方自治体などの関係者・専門家で作る「子どもの夢ネットワーク」を通して支援をしています。現在、この団体は、里親研修および里親家庭出身者を含む社会的養護に関わる団体のネットワーク整備を進めています。



プロ野球選手の岩隈久志様（シアトル・マリナース）及び吉見一起様（中日ドラゴンズ）からこのプロジェクトのため多額のご寄附をいただきました。

(2) 紛争後・災害後のまちづくり再建事業

● ラオスでの植林、学校給水施設建設事業—緑いっぱいプロジェクト in ラオス

ラオス北部のルアンプラバンには世界遺産に登録されて世界中からの観光客が訪れます。その結果ルアンプラバンと周辺の地区は急速な経済発展が続いています。反面、森林の伐採が急速に進み、土地の全面積に占める森林の割合が 40%まで減少したと伝えられます。環境破壊が進み、給水にも支障が出ています。日本ハビタット協会は、ルアンプラバン給水公社と協力して、2012 年 4 月から植林活動により人々の暮らしと自然を守る事業を実施しています。

2012 年 7~9 月、ルアンプラバンから約 40 キロ北のパクウーとパクチェクで 168 人の村人と協力して 21.5 ヘクタールの面積に 8,200 本の植林を行いました。保水に役立つ樹木だけでなくマンゴーなどの果樹も植林し、村人の暮らしに役立てるとともに、実を売って得た収入の一部であららしい苗木を購入して植林活動が継続できるようにします。

11 月には、パクウー中学校で環境保全意識を高めるワークショップを開催し、生徒と教職員合わせて 1,224 人が参加しました。人数が多かったため、3 日間に分けての青空教室となりました。質疑応答をしながら、自分たちが一日にどれくらいの水を使い、食物を食べているのかを考えることで、いかに自分たちの暮らしが自然との共生で成り立っているのかを知る機会となりました。種まきの方法も学んで、種から苗木を育て、育った苗木を山へ移植していくという植林活動が実現しています。教職員にとっても環境教育を考える機会となり、これからは学校での環境教育が続くこととなります。その結果、この地域で環境保全活動が継続することになります。また、村人、自治体、給水公社、教育局、農林局及び学校の間でのネットワークがつくられ、この事業の実施とモニターを行っています。

この事業は、2012 年を最初の年とする 3 年計画で、当協会が自主的に実施する最大の国際協力事業です。地球環境基金による助成金により実施しています。



● 「幸せのお福分け」募金開始

自分に良いことがあったとき、幸せなとき、舞い込んだ「福」を人と分かち合うと、幸せはもっと広がります。アジアの国々では自分の誕生日、結婚、出産などのおめでたいことがあると、その「幸せ」をまわりの方々に分ける習慣があります。この習慣にならって、新しい募金の方法を始めました。

● 国連ハビタット福岡本部支援事業

2013年2月、福岡国際交流センターを通じて、国連ハビタット福岡本部の活動資金を送金しました。なお、2012年度は同本部のプロジェクトに対する日本ハビタット協会への資金依頼はありませんでした。現在同本部長は代行なので、正式に本部長が任命されて当協会との関係がより良くなることを期待しています。

2. 広報事業など

(1) 舞台「あの日のこと」

東日本大震災1周年記念事業の一環として、

① 2012年5月13日に福岡エルガーホールで「あの日のこと」を上演しました。仙台出身の報道カメラマン高橋邦典氏の写真を映写しながら、宝塚出身のこだま愛さんによる、被災された方が綴った手紙の朗読と音楽の舞台を通して、震災を忘れず、1日も早い復興を祈念しました。トークに麻生渡前福岡県知事をお招きし、国連ハビタットの事務所が福岡にあることの重要性を再確認しました。



② 11月3日静岡県三島の日本大学国際関係学部山田顕義ホールで上演しました。トークでは、被災地支援をした団体の代表4人が、それぞれの団体で行ってきた支援活動から見た東日本大震災について議論をしました。

(2) 獅子舞で笑顔をつなげる - 女川獅子舞支援

地域のつながりと誇りを取り戻すことが復興に向けての力となることを願い、日本ハビタット協会が獅子頭、半纏などを寄贈した「女川港大漁獅子舞まむし」は、2012年度も当協会の支援により各地のイベントで獅子舞を披露しました。

10月13、14日に東京の新宿御苑で開催されたGTFグリーンチャレンジデー2012に招待し、獅子噛みによる来場者の厄払いと獅子舞をしていただきました。女川と東京の人々がふれあうことで、そして獅子舞を通して被災地の方々が一歩ずつ前に進んでいる姿を伝えることで、一日も早い復興への思いを一つにする場となりました。獅子舞の演舞は来場者の安寧を願うとともに、東日本大震災からの復興を会場にいる全員で祈念するものとなりました。



(3) イベントなどへの参加

東日本大震災復興支援大会として開催されている湘南国際マラソンのチャリティ募金の寄付先団体として2011年度に引き続きご寄付をいただきました。(2012年11月3日)

次のイベントに参加しました。

- ・グローバルフェスタ JAPAN2012 (東京日比谷公園 10月6、7日)
- ・よこはま国際フェスタ 2012 (横浜象の鼻パーク 10月21、22日)
- ・地球市民どんたく (アクロス福岡 11月10、11日)



(4) 企業による国際協力活動

2012 年度にも企業による国際協力活動が活発に行われました。書き損じハガキのご寄付をお願いしたところ、住友商事株式会社、全日本空輸株式会社及び成田国際空港株式会社があたたかくご協力くださり、膨大な数の書き損じハガキのほか、外貨、切手、金券類なども多数ご寄付いただきました。

(5) 国連ハビタット親善大使の活動・講演

マリ クリステイーヌ国連ハビタット親善大使・当協会副会長は、2012 年度にも広く活躍しました。各地で講演を依頼され、そのたびに資料を配って国連ハビタットの活動の広報、当協会の支援事業の広報を行っています。2012 年度に講演などの回数は 16 回、聞いた人々は合計 2,540 人でした。

2012 年 5 月 13 日の「あの日のこと」の公演の際のトークでの司会をつとめ、東日本大震災の復興支援の重要性を多くの参加者に広報しました。

(6) まちづくり通信の発行

2012 年 7 月に「まちづくり通信」21 号を、2013 年 1 月に「まちづくり通信」22 号を発行しました。会員、寄付をくださった皆様、講演会・イベント参加者に広く配布しました。

(7) 英文 ” ACTIVITIES OF JAPAN HABITAT ASSOCIATION ” の発行

当協会は 2010 年度以来 ” ACTIVITIES OF JAPAN HABITAT ASSOCIATION ” を年 1 回発行しています。今のところ国連ハビタットの大きな会議での配布を目的にしています。2012 年 8 月には、ナポリで開かれた世界都市フォーラムで配布し好評でした。なお、2011 年以来、当協会のホームページには英文の頁を設けて世界のどこからでも当協会の活動が分かるようにしてあります。

(8) メディアによる活動紹介

日本ハビタット協会の広報活動の結果、協会・国連ハビタットなどに関する記事は次の通り掲載されました。

- ・毎日新聞 2012 年 5 月 14 日
- ・クロワッサン プレミアム 2012 年 3 月号
- ・ゆらく 2013 年 3 月号
- ・現代史研究 第 9 号（東洋英和女学院大学）

(9) 企業の社会貢献活動の拡大強化



株式会社ジェーシービーの社員の方々が、日本ハビタット協会が毎月 2 回実施するボランティアデーにほとんど毎回参加して下さいました。加えて、2013 年 1 月 25 日には同社三鷹の事務所で 25 人の社員の皆様がコイン仕分けをして下さいました。2013 年 2 月 13 日には同社本社で 40 人以上の社員の方々が、札幌、大阪、名古屋の支社の社員の方々とともに、コイン仕分けボランティアをして下さいました。

本社と支社の間はテレビで結んで同じ時間に同じ作業を効率的に進めることができました。また、2013 年 2 月 5 日積水化学工業株式会社大阪本社でも行われました。このボランティア活動をサポートして下さったのは日本フィランソロピー協会でした。

三井物産株式会社及びアクセンチュア株式会社も社内でコイン仕分けのボランティアをして下さいました。

(10) インターネットを使った誹謗中傷

2012年8月頃から、日本ハビタット協会に対する誹謗中傷記事が、相当数のインターネット・メディアに掲載されはじめました。誹謗中傷の内容も、掲載時期もほぼ同じだったため、計画的な行為と推定されます。弁護士、警察などと相談しながら対策を取った結果、インターネット・メディアも全面的に協力して削除が進み、2012年11月から2013年2月までにすべて削除されました。ご心配下さった方々に深く感謝いたします。

3. 協会の運営

(1) 長期研修の結果が大型事業に発展

当協会のイベント・事業担当の職員は、JANICの助成金を受けて、2011年11月から2012年1月までラオスのルアンプラバン給水公社で長期研修を受けました。この間、ラオスでの人的ネットワークをつくりあげることができました。ネットワークは給水公社、村などの地方自治体、住民、小・中学校で構成され、「緑いっぱいプロジェクト in ラオス」事業が3年間で完了の予定で2012年4月に開始されました。このように、職員の能力向上がただちに新事業の実施につながりました。

(2) ボランティア活動の強化拡大

● 募金箱の寄付金回収とボランティアデー

今年度も多数のボランティアの皆様が、主要空港に設置した募金箱に集まった寄付金を回収して日本ハビタット協会事務局に送る仕事をして下さいました。協会事務局に届いた寄付金は、月2回のボランティアデーで仕分けていただいています。最近ではボランティアデーに参加する方々が増えて、1回10人になることがしばしばです。2012年度にボランティアデーは23回実施されました。

日本ハビタット協会は、このようなボランティアの皆様のお力が非常に大切であると考えており、今後ともご協力くださるよう期待しております。

● ハビタットフレンズの活躍

日本ハビタット協会の活動は、支援をして下さるボランティアの団体であるハビタットフレンズの皆様からのサポートなしには考えられません。仙台、山形、中野(東京)、横浜、三島、名古屋に加え、国外ではホノルル、ミラノでもハビタットフレンズが活躍しています。ハビタットフレンズ仙台的活躍はめざましく、数々の復興支援に加えて、上述の「復興の桑」事業を立ち上げました。